

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成30年度第5回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：平成31年2月12日（火） 14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III. 参加者：斎藤委員長、牧野委員、寛アトバイ、大原アトバイ、玉田主査、金子委員、
児島主査、角田委員、渡辺アトバイ (Skype)
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. ICT 戦略大会参加者からの感想・意見について

- ・ 分科会での意見では、「SDGs を課題にしてはどうか」、「授業での試行には時間がかかるためゼミで試行する教材作りを希望」、「ビデオ教材を修正して利用したい」、「情報リテラシー教育の言葉を変えてはどうか」などの意見があったことが確認された。
- ・ 参加者アンケートでは、利用しやすい教材と様々な分野の教材が参考になった、提案教材の具体像がつかめなかった、情報リテラシー名称の変更などの意見・感想があった。

2. 戦略大会分科会の結果を踏まえた委員の意見

- ・ テーマとしては、SDGs（環境等の持続可能な開発目標）を取り上げてはどうか。例えば、課題の具体例のところで大きな問題としてSDGsを捉え、その目標から考えさせてはどうか。
- ・ 教材のテーマは、レベルやバリエーションを持たせることも考えられるのではないか。
- ・ 教材を現場で使いやすいようにするため、柔軟な教材として何か工夫ができないか。
- ・ データをどのように使うのかの提示が不十分であったか、授業シナリオにデータ活用を入れてはどうか。リテラシーの中でデータを意識させることができないか。
- ・ 大会後に実施した今年度の理工学系委員の授業では、SDGsの目標を調べさせ、他と関連性のあるターゲットを調べさせ、グループで討議をさせたことが報告された。
- ・ 情報リテラシーとして基礎的なスキルの範囲から社会的問題解決に向けて取り組む方向を考えさせるのか。
- ・ 初年次では、問題を発見して解決の発想へ活かせる学修方法を学び、社会的な問題が考えられるところまで学びのオープンイノベーションとして高められれば良いのではないか。
- ・ 初年次教育で問題発見解決型の教育をする必要性の説明を入れる必要がある。
- ・ シナリオの中で大きな問題、小さな問題などを例示として入れてはどうか。また、データをどのように活用していくのか説明を入れてはどうか。
- ・ 以上のように教材を更新する意見もあったが、今回作成した教材は、参考としての提示とし、活用できるところは自由に利用してくださいとして公表することにした。また、分科会で教材評価へ賛同いただき名刺を提出いただいた先生には「どんなところが授業で使えそうですか」として意見を伺うことにした。（後日、<http://www.juce.jp/edu-kenkyu/lit/> にYouTube経由で到達目標 A/B/C の教材を掲載し、該当者にメールで案内した）
- ・ 初年次教育で行うことは、リテラシー・基礎的な技能、問題発見解決の流れ、到達目標 ABC の知識・技能、データを活用する力などの範囲をとってはどうか。
- ・ リテラシーの基本的な軸として、データ解釈の仕方などでどのように情報技術を使って問題解決に使えるのかなど、リテラシーとしてのポイントを整理してはどうか。
- ・ プラットフォームの構築については、教材の掲示、意見交換の場などが検討できないか。
- ・ データ活用について技術をどのように使うのか、倫理のポイントなどを学生に理解させ、卒業までに問題解決できるように反映させてはどうか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 今回の意見交換を踏まえて、次回は3月4日に合同会議を開催し、来年度の研究内容を検討することにした。